

ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ

どの子ども

「わかる」「できる」をめざす  
支援の工夫

ヒント集



千葉県総合教育センター



## 『はじめに』

通常の学級では、子どもたちの「わかる」「できる」授業をめざして、様々な指導や支援の工夫がされています。また、学習指導や生徒指導を行う際の基盤となる学級づくりにおいても、多くの取組がなされています。

千葉県教育委員会では、授業改善の手だてとして授業づくりの参考になる、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラムを開発し、その活用を進めています。千葉県総合教育センターでも、「授業づくりガイドブック（2010, 2012）」、「学級づくりガイドブック（2013）」を作成し、指導や支援の在り方について提案してきました。

また、通常の学級における学習面や行動面で困難を抱えている子どもへの対応として、千葉県総合教育センターでは、「通常の学級における特別な教育的ニーズのある子どもへの支援(2010)」、「高等学校における学びを支えるための支援ガイドブック(2012)」を作成し、支援の在り方を提案してきました。

通常の学級においては、特別な教育的ニーズのある子ども以外にも、得意不得意を含めて、困難を抱えている子どもたちがいます。こうした子どもたちを含めて、授業づくりや学級づくりを考えることが必要です。

特別な教育的ニーズのある子どもに対しては、個別指導だけでなく学級集団の場面でも、特性に応じた支援が必要です。こうした子どもたちに必要な支援の多くは、工夫により他の子どもにとっても、より「わかる」「できる」を促すことになり、使える、あると便利な支援となるのではないのでしょうか。

そこで、これまで通常の学級で行われてきた指導や支援を、「誰もが使えて誰もが便利」というユニバーサルデザインの考え方を取り入れて見直し、整理しました。特性に応じた支援について、考え方や工夫の仕方等を考えるにあたり、特別支援教育での支援の工夫を参考にしています。

研究1年目の質問紙調査の結果をふまえ、子どもたちにとって「わかりやすく」「活動に取り組みやすく」「認められ安心して取り組める」支援を考える視点として、「情報提示」「環境整備」「学級集団づくり」の3つを取り上げました。視点ごとに、支援の工夫をする目的を示し、どのような支援があるか工夫例を挙げ、【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】としてまとめました。

この冊子は、より多くの子どもが「わかった・できた」と実感できる授業づくりやそのための基盤である学級づくりでの支援の工夫の考え方と、実践例で構成しています。

授業づくりや学級づくりで悩んでいる時はもちろん、もう一度、子どもたちに必要な支援を見直す際のヒント集として活用していただけたら幸いです。

# 『目次』

## はじめに

I	活用にあたって	1
1	通常の学級の実態（質問紙調査から）	
2	ユニバーサルデザインの視点	
3	どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表	
4	3つの視点	
II	3つの視点に基づく支援の目的と支援の工夫例	4
	～コラム～「一例を参考にアレンジを」	
1	視点1『情報提示』	
2	視点2『環境整備』	
3	視点3『学級集団づくり』	
III	【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】	8
IV	具体的取組例の紹介	10
1	記載内容の説明	
2	具体的取組例	
	視点1『情報提示』 例1～例15	12
	視点2『環境整備』 例16～例26	27
	視点3『学級集団づくり』例27～例35	38
V	ユニバーサルデザインの視点をふまえた支援の指導案への記載例	47
1	指導案に示す支援の書き方のポイント	
2	展開部分の記載例	
VI	学校体制での取組例	54
1	学年や学校全体で支援の方法を深めた実践例	
2	教員の取組を共有化した実践例	
	～コラム～「教師個人の取組から学校全体での取組に広げるために」	
	参考文献	57

# I 活用にあたって

## 1 通常の学級の実態（質問紙調査から）

平成 24 年度に県内の教員を対象に行った調査(注1)では、小・中・高等学校の通常の学級においては、学習や行動、対人関係において、特別な支援や配慮を必要としている子どもが複数名在籍している状況が伺えます(図 1)。

反面、通常の学級の中で特別な支援や配慮をすることは難しいと感じている教員が多いこともわかりました。

こうした子どもへ対応しながら、学級全体へ支援を行うことが必要であろうと考えます。

日頃、学級で取り組んでいる支援についての調査では、多くの質問項目で、例(図 2)のように取り組んでみたいという意見が見られました。そこで、必要な支援を考えるためのヒントとなる情報を本冊子にまとめました。

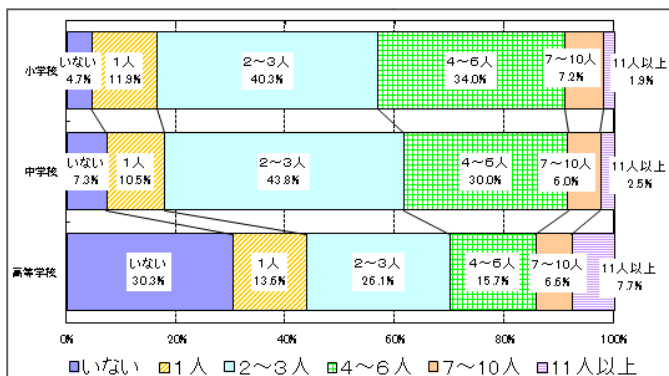


図 1 学級内の特別な支援や配慮が必要な児童生徒

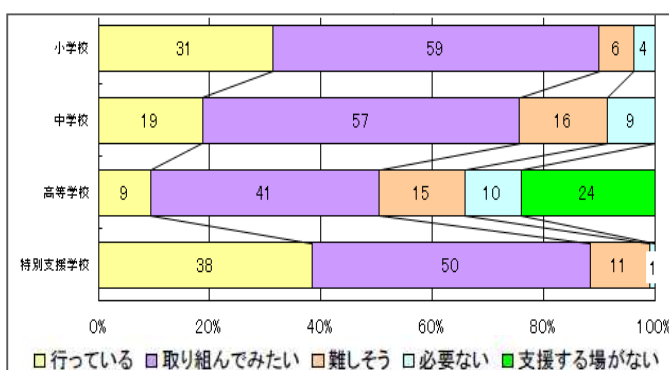


図 2 例 質問項目「人とかかわり方について学ぶ機会を設ける」

(注1)千葉県総合教育センター調査研究 対象:県内 422 校 1837 人の教員へ依頼、回収率 99.8%

(内訳:小学校:173校 1,033人,中学校:135校 405人,高等学校:86校 287人,特別支援学校:28校 112人)  
調査結果の詳細は、「千葉県総合教育センター 平成 24 年度 研究報告書第 406号」にて、ご覧いただけます。(HPアドレス <http://www.ice.or.jp/nc>)

## 2 ユニバーサルデザインの視点

本冊子では、特別な教育的ニーズのある子どもに必要であり、その支援を行うことで他の子どもにとっても、より「わかる」「できる」につながるという見方を、ユニバーサルデザインの視点として考えています。

## 3 どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表

これまで通常の学級において取り組まれてきた、学力向上をめざしたわかる授業づくりや、一人一人の居場所がある学級づくりのための指導や支援と、特別な教育的ニーズのある子どもに対しての支援を、ユニバーサルデザインの視点で見直し、整理したものです。「情報提示」「環境整備」「学級集団づくり」の3つの視点に大きく分け、学級の実態からどのような支援が必要なのかを考えやすいように、支援の目的ごとにユニバーサルデザインの視点にたった具体的な支援内容を取り上げています。

## 4 3つの視点

### (1) 支援の工夫をする視点

3つの視点で支援の工夫を整理しました。視点ごとに、支援を行う目的にそって支援の工夫の考え方と支援例を取り上げました。

#### 1 情報提示

視覚的情報，聴覚的情報等の提示の仕方についての支援の工夫です。子どもたちは五感を有効に使い情報を処理しています。わかりやすい情報の提示や活用は，子どもたちの「わかる」「できる」を促すことにつながります。

以下の3つの目的で支援の工夫を提案します。

- (1) 読むこと，書くことを促す
- (2) 聞くこと，話すことを促す
- (3) 理解を促す

#### 2 環境整備

活動に取り組みやすくするための環境整備についての支援の工夫です。生活や学習の場である教室環境への配慮，時間や教具等への配慮により，取り組む姿勢が調います。

以下の3つの目的で支援の工夫を提案します。

- (1) 落ち着いた取組を促す
- (2) 見通しをもつことを促す
- (3) 書くことを調整し思考を促す

#### 3 学級集団づくり

どの子ども「わかる」「できる」授業づくりのためには，一人一人の意見が認められ，安心して活動に取り組むことができる学級集団が基盤となります。授業の基礎となる学級集団づくりの支援の工夫です。

以下の3つの目的で支援の工夫を提案します。

- (1) 表出意欲を高め理解を促す
- (2) 活動への参加を促す
- (3) 人間関係づくりを促す

通常の学級で取り組まれてきた授業や学級づくりにおける様々な支援を，ユニバーサルデザインの視点で見直し整理する中で，「情報提示」「環境整備」「学級集団づくり」の3つの視点で大きく分けられることがわかりました。

この3つの視点は，特別な教育的ニーズのある子どもへの支援を考える時に大切にしている視点です。また，通常の学級でも，授業をよりわかりやすく，参加しやすく，より居心地のよい学級にするために工夫している視点でもあります。

## (2) 学級の様子と支援の工夫

子どもたちの様子は、支援の工夫の目的を考える際の参考となります。

このような子どもたちの様子，気になりませんか？



読むことや書くことが苦手

聞くことや話すことが苦手

内容を十分に理解できていない

支援のヒントはP 4

全体的に落ち着きがなく，集中できない

活動への取りかかりが遅い

書くことに精一杯で，考えるまでいかない

支援のヒントはP 6

発言する子どもが少ない

活動に参加できない

子どもたちの関係がうまくいっていない

支援のヒントはP 7

## (3) 他の実践の紹介

3つの視点に基づく支援の工夫例を具体的に取り上げました。  
また、指導案への記載例や学校体制での取組例も紹介します。



支援の工夫の具体的な取組例です。(P 11～)



支援の工夫の指導案への記載例です。(P 47～)



学年や教科，学校全体での取組例です。(P 54～)

## Ⅱ 3つの視点に基づく支援の目的と支援の工夫例

どのような子どもの姿をめざし、そのためにどのような支援の工夫をしたらよいかについて、視点ごとに支援内容の一例を挙げました。

～コラム～

### 「一例を参考にアレンジを」

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所  
総括研究員 梅田 真理



「ユニバーサルデザイン」、こんな新しい言葉を聞くと、「難しいことをするのは…」とか、「新たに負担が増える?!」と不安に感じることもありますよね。しかし、やってみると意外に簡単だったり、「以前やったことがある」と感じたりする場合もあります。新しいことを取り入れるだけでなく、日頃、学級や授業の中でやっている工夫を、新たな視点で整理してみることも大切です。

ここでは、みなさんにとってなじみのある工夫を、どの子も「わかる」「できる」をめざした3つの視点「情報提示」「環境整備」「学級集団づくり」にそって、整理して提示しています。視点を決める段階では、どの学級にもいる、特別な支援を必要とする子どもをイメージしましたが、検討を進める中で、実はそのような子どもにも有効な支援は、他の子どもにも有効であることがわかりました。そこで「どの子」にとっても有効な支援という視点で、内容の整理や実践事例の収集を行いました。

けれど、これはあくまでも一例です。みなさんが、それぞれの学校、学級の実態に合わせてアレンジして使うことが大切です。このヒント集が、それぞれの学校のオリジナルな「実践集」になっていくことを願っています！

## 1 視点1 『情報提示』

### (1) 読むこと、書くことを促す

#### (ア) 色遣いや文字サイズ等の配慮で、重要事項等が意識でき、見やすく写しやすくする

- ・ 板書や掲示物、プリント等での文字の色や大きさ、書体に配慮する
- ・ 板書では重要事項を枠や罫線で強調したり、図等も取り入れて工夫したりする
- ・ 要点等を書いたカードの活用、発言内容の記載に小黒板等を活用する
- ・ 問題文等を板書する時は、読解が高まるように行替えに留意する

#### (イ) 難しい漢字や重要事項等に仮名をふるなどで、読みやすくする

- ・ 板書、ワークシート、学級だより等は、必要に応じ、漢字や英字、音符に仮名等をふる
- ・ 必要に応じ、教科書等に仮名をふることを指示する

#### (ウ) 文字に指や定規をあてる方法を取り入れるなどで、読む箇所を明確にし、読みやすくする

- ・ 読む時には、必要に応じ、文字をなぞる、定規や半透明のスリットをあてる
- ・ 文章の途中に適宜「スラッシュ(/)」を入れる



**(I)書く方向を示したり，マス目や罫幅の広いノートを使用したりするなど，書きやすくする**

- ・教科書や手本とノートの位置を工夫する
- ・発達段階にあったマス目や罫幅のノートを各自で選択できるようにする
- ・テスト等の解答欄は書きやすい大きさにする
- ・書き出しなどがわかるように，1マスや1行を空ける印（○や□）を書く

**(2)聞くこと，話すことを促す**

**(P)ゆっくり，はっきり，端的に平易な言葉で話すなどで，聞き取りやすくする**

- ・最後の言葉まではっきり話す，わかりやすい言葉で短く区切り，適切な間をとって順序よく話す
- ・一度に一つの指示にするなど，正確に聞き取れるように配慮する
- ・教材で興味をもたせたり，読む箇所を板書したりして，注意を向けさせてから話す

**(I)選択肢の提示や教師による補足説明などで，質問に答えやすくする**

- ・選択肢を提示した質問を必要に応じて取り入れる
- ・質問の内容がわかりやすくなるよう補足説明をする
- ・付箋等(自分の名前や自分の意見等を書く)を使っての発表を行う

**(U)話す手順やキーワード等を掲示するなど，話しやすくする**

- ・「いつ,どこで,だれと」などの話す手順や,キーワード等を視覚的な資料で示す
- ・「声の大きさ表」等を活用し，適切な声の大きさを示す

**(3)理解を促す**

**(P)具体物や写真，映像等を活用して説明をするなどで，イメージをもちやすくする**

- ・新出漢字や単語等に絵や写真等を添えて示す
- ・見本を写真や図等で示す
- ・内容を動作化して説明する

**(I)学習課題に焦点をあてた教材の工夫や課題提示の工夫などで，学習課題を把握しやすくする**

- ・何をどのようにすれば課題を解決できるか，具体的な課題提示をする
- ・本時の学習課題に注意が向き，考えを深められるよう素材や教材を工夫する

**(U)既習事項やポイント等により考え方のヒントを示すなどで，課題解決に取り組みやすくする**

- ・活動を思い出せる写真やしおり，語句のカード等を用意し,必要に応じ活用する
- ・公式や乗法九九のカード等を用意し，必要に応じて使えるようにする
- ・具体的な作業指示を入れた発問をして,一つ一つの活動内容をわかりやすくする

**(I)操作する活動や動きのある活動を取り入れるなどで，思考を深めやすくする**

- ・触れたり教材を操作したりすることで，気付きを促したり考えを深めたりする
- ・動作を付けた説明や，ロールプレイを通して気付きにつなげる

## 2 視点2『環境整備』

### (1) 落ち着いた取組を促す

(ア)教室前面や黒板の掲示物等を精選して、教室環境を整えるなどで、注意を集中しやすくする

- ・教室前面や黒板の掲示物は、最小限必要な情報の掲示にとどめる
- ・配色等に統一感をもたせるなど、整然とした心地よい教室環境をつくる

(イ)写真やラベル等により場所の手がかりや見本を示すなどで、自分で判断し取り組みやすくする

- ・教室内の教材や生活用品、私物の収納場所や方法は、写真やラベル等でわかりやすく示す
- ・取り組む位置や動線等を番号や印等でわかりやすく示す

### (2) 見通しをもつことを促す

(ア)板書やタイマー等により終わりの時間を示すなどで、時間的な見通しをもちやすくする

- ・取り組む時間を事前に伝え、時計やタイマー、砂時計等で時間を示す
- ・事前に次の活動を伝え、終わった後の活動に見通しがもてるようにする

(イ)取組の手順に番号をつけて事前に提示するなど、活動内容の見通しをもちやすくする

- ・学習や活動の流れにそって番号を付ける
- ・事前に提示したり、教室前面に掲示したりする

(ウ)年間計画、週予定や日程等を視覚的に提示するなど、学校生活の見通しをもちやすくする

- ・日程や週予定等は、小黒板や背面黒板等へ書き、変更点をその都度記入する
- ・特に行事の日程は、掲示するとともに、事前に明確に伝える

### (3) 書くことを調整し思考を促す

(ア)書く時間の保障、板書する速さや間などの配慮で、よく考え視写しやすくする

- ・考える時間、書く時間をはっきり決めて確保する
- ・子どもたちの書く速さに合わせて板書をしたり、考える間を入れたりする

(イ)代替手段(板書計画に則したプリントやタブレットPC等)を活用するなど、書字に対する負担を軽減し、思考に集中しやすくする

- ・板書に合わせたワークシートや穴あき式のワークシートを用意する
- ・一人一人の実態に応じて選べるよう、複数のパターンのワークシートを用意する
- ・タブレットPC等で板書を撮ることで、ノートの代わりにする

### 3 視点3『学級集団づくり』

#### (1) 表出意欲を高め理解を促す

- (ア)各自で考えをまとめ、ペアやグループで共有するなど、発表しやすくし、また思考を深めやすくする
- ・自分の意見を伝えやすいよう、ペアや4人程度のグループで話す場面を設ける
  - ・全体やグループでの発表の前に、自分の考えをノートにまとめる
  - ・友だちと同じ意見も賛成の意見として発言できるようにして、発言の機会を広げる
- (イ)つぶやきや発言を受け止め、安心して表出できるようにし、それらを取り上げて全体で共有するなど、理解を深めやすくする
- ・しぐさ、あいづち、アイコンタクトや肯定的な言葉遣いで子どもの発言を共感的に受け止める
  - ・子どものつぶやきを全体の中に位置づけたり、他の子どもへ問いかけたりする
  - ・子どもの発言に関連して、その内容や意味を他の子どもに問い返す

#### (2) 活動への参加を促す

- (ア)他者評価や自己評価の場面を設けるなどで、取組が認められることにより、意欲を持続しやすくする
- ・お互いの良いところを認め合う場を、日常の中に計画的に設ける
  - ・かかわる教師全員で、子どもの良いところを意識して見つける
- (イ)得意なことなどを生かした活動や役割を果たす場面を設けるなどで、主体的に取り組みやすくする
- ・グループの活動等では、一人一人の役割がはっきりわかるように提示する
  - ・その分野に秀でた子どもを意図的にアドバイザーとする
- (ウ)学習や学級のルールを明確に示すなどで、安心して活動に取り組みやすくする
- ・発言する時や聞く時のルールを常時確認できるように、見やすい場所に掲示する
  - ・ルールは継続的な取組を通して定着させる
  - ・姿勢や聞く・話すなどのルールを、写真やカード等で必要に応じ提示する

#### (3) 人間関係づくりを促す

- (ア)互いを認め合う取組(グループワーク等)で、自己理解や他者理解を深めやすくする
- ・グループワークや朝・帰りの会のスピーチ等で伝え合う場面を設ける
  - ・望ましい行動様式を学べるよう、日常生活の中でソーシャルスキルの学習を取り入れる
- (イ)適切なタイミングで称賛や感謝の言葉をかけたり、子ども同士で認め合ったりするなど、自己肯定感や所属意識を高めやすくする
- ・生活年齢や発達段階に応じた言葉で、称賛や感謝の言葉をタイミングよくかける
  - ・子どもが互いに評価する場を設ける
  - ・最後までできる活動を用意し、できたことを称賛する機会を設ける

※ それぞれの支援の工夫についての具体的な取組例を載せました



P11~

### Ⅲ 【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】

授業づくりや学級づくりにおいて、これまで通常の学級で行われてきた、学力向上をめざした「わかる授業」のための工夫や配慮を基に、「特別な支援を要する子どもに必要な支援は、他の子どもにとっても助けとなり、あればよりわかりやすくなる支援である」という観点で、整理したものです。

3つの「視点」、9つの「支援の目的」、25の「支援の工夫例」でまとめました。

#### 【3つの視点】

情報提示：わかりやすい情報提示の仕方について

環境整備：活動に取り組みやすい環境整備について

学級集団づくり：生活や学習の基盤である学級集団づくりについて

#### 【具体的取組例】（支援の工夫例に則して、具体的な取組例を35例挙げました。）

小中高：小・中(通常の学級)、高等学校での取組例

特支：特別支援学校での取組例（より個々の実態に応じた支援の工夫例として参考にしてください。）

視点	支援の目的	支 援 の 工 夫 例	具体的取組例	
			小中高	特支
1 情報提示	(1) 読むこと、 書くこと を促す	(ア)色遣いや文字サイズ等の配慮で、重要事項等が意識でき、見やすく写しやすくする	例1	
		(イ)難しい漢字や重要事項等に仮名をふるなどで、読みやすくする	例2	例3
		(ウ)文字に指や定規をあてる方法を取り入れるなどで、読む箇所を明確にし、読みやすくする	例4	
		(エ)書く方向を示したり、マス目や罫幅の広いノートを使用したりするなど、書きやすくする	例5	
	(2) 聞くこと、 話すこと を促す	(ア)ゆっくり、はっきり、端的に平易な言葉で話すなどで、聞き取りやすくする	例6	
		(イ)選択肢の提示や教師による補足説明などで、質問に答えやすくする	例7	
		(ウ)話す手順やキーワード等を提示するなど、話しやすくする	例8	例9
	(3) 理解を促す	(ア)具体物や写真、映像等を活用して説明をするなどで、イメージをもちやすくする	例10 例11	
		(イ)学習課題に焦点をあてた教材の工夫や課題提示の工夫などで、学習課題を把握しやすくする	例12	
		(ウ)既習事項やポイント等により考え方のヒントを示すなどで、課題解決に取り組みやすくする	例13	
		(エ)操作する活動や動きのある活動を取り入れるなどで、思考を深めやすくする	例14	例15

視点	支援の目的	支 援 の 工 夫 例	具体的取組例	
			小中高	特支
2 環境整備	(1) 落ち着いた取組を促す	(ア)教室前面や黒板の掲示物等を精選して、教室環境を整えるなどで、注意を集中しやすくする	例16	
		(イ)写真やラベル等により場所の手がかりや見本を示すなどで、自分で判断し取り組みやすくする	例17	例18
	(2) 見通しをもつことを促す	(ア)板書やタイマー等により終わりの時間を示すなどで、時間的な見通しをもちやすくする	例19	
		(イ)取組の手順に番号をつけて事前に提示するなど、活動内容の見通しをもちやすくする	例20	例21
		(ウ)年間計画、週予定や日程等を視覚的に提示するなど、学校生活の見通しをもちやすくする	例22	
	(3) 書くことを調整し思考を促す	(ア)書く時間の保障、板書する速さや間などの配慮で、よく考え視写しやすくする	例23	
(イ)代替手段(板書計画に則したプリントやタブレットPC等)を活用するなど、書字に対する負担を軽減し、思考に集中しやすくする		例24 例25	例26	

視点	支援の目的	支 援 の 工 夫 例	具体的取組例	
			小中高	特支
3 学級集団づくり	(1) 表出意欲を高め理解を促す	(ア)各自で考えをまとめ、ペアやグループで共有するなど、発表しやすくし、また思考を深めやすくする	例27	
		(イ)つぶやきや発言を受け止め、安心して表出できるようにし、それらを取り上げて全体で共有するなど、理解を深めやすくする	例28	
	(2) 活動への参加を促す	(ア)他者評価や自己評価の場面を設けるなどで、取組が認められることにより、意欲を持続しやすくする	例29	例30
		(イ)得意なことなどを生かした活動や役割を果たす場面を設けるなどで、主体的に取り組みやすくする	例31	
		(ウ)学習や学級のルールを明確に示すなどで、安心して活動に取り組みやすくする	例32	例33
	(3) 人間関係づくりを促す	(ア)互いを認め合う取組(グループワーク等)で、自己理解や他者理解を深めやすくする	例34	
(イ)適切なタイミングで称賛や感謝の言葉をかけたり、子ども同士で認め合ったりするなど、自己肯定感や所属意識を高めやすくする		例35		

## IV 具体的取組例の紹介

### 1 記載内容の説明



【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】に則した35の「具体的取組例」を紹介します。

小・中(通常の学級)・高等学校の取組例として27例、より個々の実態に応じた支援の工夫の参考例として、特別支援学校の取組例を8例挙げています。

「具体的取組例」は、以下のような記載となっています。

【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】に則して

- 視点
  - 支援の目的
  - 支援の工夫例



#### 【学級の様子】

- ・ 支援の工夫が必要と考えるに至った子どもたちの様子です。



#### 【工夫のポイント】

- ◎ どのような点に工夫したのかを示しています。
  - \* その支援についての詳細です。
  - 方法や留意点を示しています。



子どもたちの様子や言葉です。  
子どもたちの変容等も含んでいます。



支援の工夫をする意図や方法です。



支援の工夫を指導案に記載した例です。  
展開部分等指導案の一部を載せてあります。